

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2170400564
法人名	有限会社 サンシャイン
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来)
所在地 (電話番号)	羽島市正木町不破一色305番地 (電 話) 058-391-1345
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年5月26日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20人
利用定員数計	18人
常勤	19人
非常勤	1人
常勤換算	9.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	19,600 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0名	要介護2	9名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	66歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩佐医院 一宮西病院 上林記念病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム すずらん幸せの再来では利用者が普通の一人の人間としての暮らしが出来るよう施設長、管理者、職員が一丸となって取り組んでいる。職員会議では理念につながる支援が出来るよう話し合いがされ、施設長の質の高いケアを目指した実践指導が行なわれている。利用者の普段の生活は自分のやりたいことに合わせて食事の準備、後片付け、洗濯、畑での収穫、散歩、お宮まいり、ゲームなどを行ない楽しく過ごしている。また、家庭的な雰囲気の中で利用者の希望や能力により利用者自身が小遣いを管理するなど日々の生活の中でも尊厳ある生活を送る取り組みが続けられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は9点あったが、毎月1回職員会議が全員出席で行われ、運営に対する意見やケアプランに対する検討、運営理念の浸透が行われている。介護相談員の受け入れ、定期健康診断の実施、救命救急の研修など積極的に改善の取り組みがなされている。しかし、ホームの機能を地域住民に開放するための実施は行事等の案内はできたが、より開放するよう検討を継続している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は各ユニットでありのままに評価を行った。判断しにくいところは上司に相談し評価した。その後サービスの視点に添って、利用者の特徴を考えながら皆で話しあい積極的に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用者の状況やグループホームの情報提供を行いサービスの向上に努めている。会議の内容は記録に残され職員会議等でも検討され活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付窓口は施設長が担っている。また外部の相談員の任命も民生委員になされ、ホームの玄関にも掲示されている。月1回家族との連絡も取られたり、ほとんどの家族は面会に来られるので出来るだけ希望や意見を聞き運営に反映されるよう努力している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の日常生活における方針は普通の一人の人間として暮らせるよう利用者の希望や能力にあわせた支援がされている。散歩や畑仕事・収穫のおりには地域の人々と話をしたり、子供と挨拶をするなど日常のふれあいが多くある。ボランティアの受け入れ、また、地域の方の相談にもなることがある。</p>
重点項目④	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は地域の中で利用者が「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「いっしょに支えあうケア」を掲げ事業所独自のケア理念を述べている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念に対する考えをマニュアル化し日常のサービスの中で指導し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域活動に参加する努力をしていて、行事や日常の散歩や畑仕事を通して地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット毎に評価し具体的な改善目標を掲げ評価に対する理解を深めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部委員を含め、定期的に利用者の状況やサービスの情報提供を行いサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議の内容を深める方向に向けてテーマを設定し、テーマに合わせてメンバーを依頼するなどより一層の取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは会議以外でも常に連絡し相談や話し合いができる。	○	サービス向上のためにより一層関係分野への相談や連携への取り組みに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ホーム便りを郵送し、個々の家族への連絡も行っている。ほとんどの家族は面会に来られるのでその機会を利用するなどして日常の暮らしぶりや金銭管理等報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は施設長になっており家族の意見を運営に反映させるよう第三者委員の選任もなされている。	○	今後、より一層家族の意見を運営に反映できるよう外部の相談窓口の紹介をするなどの検討を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や施設長は、職員の離職は信頼関係が出来て利用者のためダメージが大きいことを認識し、職員の相談にのるなど職員が替わることがないように日頃から調整している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会をもうけ、知識や技術の習得ができるよう努めている。	○	キャリアアップのために管理者を含めた職員研修計画を作成して取り組まれるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、意見交換や情報交換がなされサービスの質の向上に努められている。また、より一層のネットワークの充実や活動を通じてのサービスの質向上を期待されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば本人に見学に来ていただき、他の利用者に紹介をするなどしている。持ち物も危険でないもの意外は利用者や家族の希望を聞き、馴染みができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念の中にお互いに支えあうケアがあり、施設長は普通の暮らしの中に利用者と職員が支えあう関係作りに重点をおいている。また職員もよく理解し実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案や見直し時は利用者や家族の意向を記録し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者ができること、興味のあることなど一人ひとりにあった計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは利用者の状態の変化や介護の評価を基に行い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は利用者や家族の意向を受け入れ柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけの医師に受診できる。月2回の往診や訪問歯科医師の診察も希望があれば受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたケアの検討は行われている。家族の意向を普段から聞き職員やかかりつけ医師との話あいも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを尊重した声かけや言葉遣いで対応をしている。また、記録類や写真の取り扱いも承諾を得るなど個人情報に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物の取り扱いや野菜の世話など一人ひとりのペースで希望に添って支援している。お酒を希望される方には夕食時にときおり飲酒をしていただくなど、ゆったり過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力や希望に添って食事や準備、あと片づけをしている。職員も一緒になって楽しく食事が出来るよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴や足浴は希望を取り入れて体の洗う順番を聞くなど楽しむことができるようにしている。また、同姓による介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望に合わせて畑に行く、散歩、貼り絵、ゲーム、歌を歌うなど楽しみごとを作るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出や買い物、喫茶店、お宮まいり、ごみ出し、畑仕事など戸外に出れるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜8時から朝6時40分まで以外はいつでも出入りできるよう鍵はかけられていない。また鍵をかけずに利用者を見守る方法についても職員会議等で話し合われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対策について訓練が行われている。常備のためにお茶を準備するなど検討している。地域の協力に対する働きかけも検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分量の把握のため尿回数とともに記録して確認している。また、体重測定も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清潔に保ち、不快を感じないよう換気にも注意している。利用者の落ち着いた場所探しや季節の花を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から持参した箆箆や飾り物など使い慣れたものや好みを活かして利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		